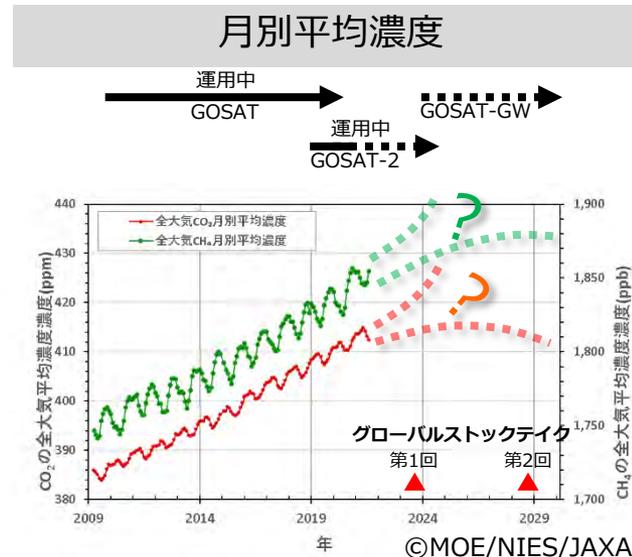


温室効果ガス観測技術衛星(GOSAT)シリーズの現状

GOSATシリーズの観測成果

全球的な温室効果ガス濃度の上昇を観測することにより、気候変動に関する科学の発展や国際交渉への貢献を目的として実施。

- ➡ GOSAT初号機は2009年1月23日に打上げられ、CO₂及びメタンを13年以上、宇宙から全球的に観測を続けている。
- ➡ GOSAT-2は、2018年に打ち上げられ、CO₂及びメタン、一酸化炭素を観測している。



GOSATシリーズの目指すもの

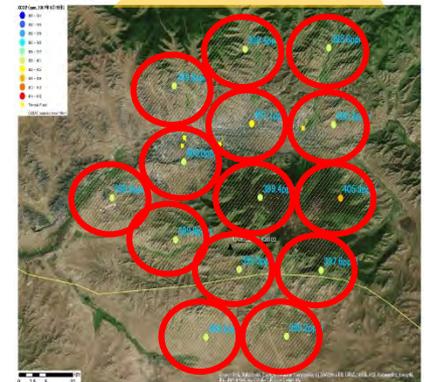
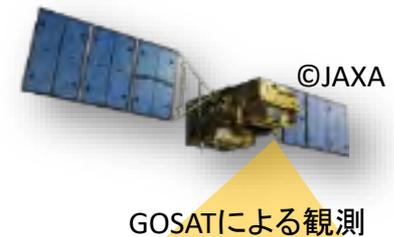
安定的かつ長期的な観測により、パリ協定に基づく世界各国が実施する気候変動対策の『透明性向上』への貢献を目指す。

- ➡ 2023年度に3号機となるGOSAT-GWの打ち上げを計画。



GOSATシリーズ観測データによる国別CO2インベントリ比較・検証事業

- GOSATシリーズによる安定的かつ長期的な観測により、パリ協定に基づく世界各国が実施する気候変動対策の透明性向上に貢献するべく、**モンゴル国**を対象にGOSATによるCO2排出量推定技術の開発を平成30年度より3年間で実施。
- GOSAT観測データから推計したCO2の2018年排出量と、モンゴル国が統計データ等から算出する排出インベントリ※1のエネルギー部門(2014年をベースにGDPで勘案して2018年の排出量を推計)を比較した結果、概ね一致。
- 本技術の有用性を評価・検証し、実用性を高める目的として、モンゴル国以外の複数国※2に対して説明を実施。
多くの参加国から前向きな回答を頂いた。
- 来年度以降についても、候補国に対する本検証事業を進め、また、新しい候補国の探索や普及活動展開を進める方針。



※1:CO2排出インベントリとは、どこからCO2がどれだけ排出されているかを集計した目録。
※2:カザフスタン・キルギス・タジキスタン・トルクメニスタン・ウズベキスタン